

【目次】

1. 湯浅博氏を招き、報告会「全体主義と闘った男 河合栄治郎」を開催、4月24日！
2. 友愛会館屋上で「つつじを楽しむ会」を開催、4月26～28日！
3. 連載「日本労働会館物語」第64回—ユニテリアン、友愛会書記・市川房枝 その1—

1. 湯浅博氏を招き、報告会「全体主義と闘った男 河合栄治郎」を開催、4月24日！

友愛労働歴史館は4月24日（月）14：00～16：00、第14回政治・社会運動史研究会を開催しました。テーマは「全体主義と闘った男 河合栄治郎」で、産経新聞の湯浅博論説委員を招き、公開報告会の形で開きました。



元東京帝国大学教授の河合栄治郎は、「理想主義、人格主義、教養主義」の人とされ、戦前期の日本において左の全体主義（共産主義・マルクス主義）を強烈に批判し、また軍部が台頭すると右の全体主義（軍国主義、ファシズム）とも闘った人物として知られています。このため河合栄治郎は「闘う自由主義者」と呼ばれました。河合はファシズム・軍国主義を批判して東京帝国大学を追われ、1944（昭和19）年に53歳で亡くなっています。多くの門下生を輩出しており、学会では大河内一男・安井琢磨・木村健康、猪木正道、土屋清、関嘉彦、音田正巳らがいます。戦後、一部の門下生は社会思想研究会・社会思想社・民主社会主義研究会議（現・政策研究フォーラム）を創立し、社会党右派や民社党のブレーンとしても活躍します。ビジネス界では東京電力社長の木川田一隆や日銀総裁の山際正道・宇佐美洵・佐々木直らが知られています。



報告を行った湯浅博氏は、2月に『全体主義と闘った男 河合栄治郎』（産経新聞出版）から刊行しており、今回の報告会はそれを記念したものでした。湯浅氏は河合栄治郎に影響を与えた人々（徳富蘇峰、新渡戸稲造ら）から話しをスタートし、河合の人間像・思想について1時間強に亘って報告を行いました（詳細は略）。その後、参加者と質疑・意見交換を行い、16時前に閉会しました。



2. 友愛会館屋上で「つつじを楽しむ会」を開催、4月26～28日！



友愛労働歴史館が入居している友愛会館の屋上にはつつじが植栽されており、毎年、期間限定で開放されています。今年の「つつじを楽しむ会」は、4月26日（水）～28日（金）の12：30～13：30に行われました。

また、28日（金）AMは近所の芝小学校3年生を招待し、同日PMは地域の皆さんを招待して、つつじを楽しんでいただきます。写真（27日撮影）には友愛会館屋上のつつじと東京タワー、芝増上寺などが写っています。なお、当館は芝小学校3年生70名の皆さんに、ポストカード「ユニテリアン教会・唯一館（現友愛会館）」を提供します。

3. 連載「日本労働会館物語」第64回—ユニテリアン、友愛会書記・市川房枝 その1—



今回はユニテリアン、友愛会書記、婦人運動家の市川房枝（1893.05.15～1981.02.11）です。市川は戦前期、日本の婦人運動を主導した一人であり、戦後は参議院議員としても活躍します。市川房枝は1893年に愛知県一宮市で生まれ、1981（昭和56）年に89歳で亡くなっています。

ユニテリアン・市川房枝ですが、『なんでもわかるキリスト教大辞典』（朝日文庫）は日本人ユニテリアンとしてジョン万次郎、安部磯雄、内ヶ崎作三郎、市川房枝の名前を挙げています。また、市川は『市川房枝自伝』の中でユニテリアンや教会について、「上京してからの私は、『六合雑誌』を読んでいた関係から、芝の増上寺近くの三田四国町にあったキリスト教の一派ユニテリアンの統一教会に所属し、毎日曜というほどではないが、通っていた。現在全日本労働総同盟（同盟）のある友愛会館は、この跡地にたてられているようだ。アメリカ人牧師のほか、早稲田大学教授であった内ヶ崎作三郎、第一高等学校教授の三並良、小説家の沖野岩三郎の諸氏が牧師として説教していた。会員には、安部磯雄、大山郁夫、鈴木文治、松岡駒吉、佐々木ふさ氏らがいたようだ」と記しています。

友愛会書記・市川房枝ですが、市川は前掲書で「統一教会の牧師沖野岩三郎氏から、大日本労働総同盟友愛会婦人部の書記として機関誌の編集をしないかとの話がきた。私自身働く婦人であり、働く婦人の問題に興味を持っていたので直ちに承諾、すぐ統一教会内の友愛会本部を訪問した。面会したのは教会の集まりで一面識のある会計の松岡駒吉氏で、いろいろ質問されたのち採用と決定、翌日から出勤することになった」と記述しています。大正8年9月のことであり、統一基督教会（ユニテリアン教会）の沖野岩三郎牧師が紹介者であったことが分かります。こうして友愛会書記となった市川房枝ですが、ILO 政府代表随員問題（詳細は略）で辞任し、友愛会を去っています。わずか3カ月の友愛会書記でした。

市川房枝の後、友愛会・総同盟の書記となったのが赤松常子で、戦前期に婦人運動に取り組み、戦後は参議院議員としても活躍するなど、市川房枝と同じような道を歩んでいます。赤松常子の死後、出版された追悼記念誌に市川房枝が寄稿していますが、それは先輩（友愛会書記、婦人運動家）としての追悼メッセージでした。なお、赤松常子の祖父は明治仏教界で有名な赤松連城、兄が社会運動家の赤松克麿、叔父・叔母は与謝野鉄幹・与謝野晶子です。

「友愛会創立を記念する会（高木剛会長）」の1965（昭和40）年の発起人名簿に、西尾末廣や棚橋小虎らとともに市川房枝と野坂参三（共産党議長）の名前があります。二人とも友愛会主流（総同盟・同盟系、社会民衆党・日本社会党右派・民社党系）の人たちとは、やや肌合いが違います。しかし、二人とも元友愛会書記として、共通の経歴を持っています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

唯一館から123年、友愛会から105年
